

(新規提案)

NO. 23	技術開発 提案名	既存躯体接合面に目荒しを施さない耐震改修接合工法の開発		
事業者	・ 矢作建設工業株式会社 ・ 名古屋大学			
技術開発 経費の総額 (予定)	約 17 百万円	技術高度化 の期間	平成27年度～ 28 年度	
住宅等における環境対策や健康向上に資する技術開発 住宅等におけるストック活用、長寿命化対策に資する技術開発 ■ 住宅等における防災性向上や安全対策に資する技術開発				
背景・目的	耐震補強の重要性を背景に、あと施工アンカーを介した接合方法の力学メカニズムを明確にすることと騒音や振動といった施工時の問題を解決することを目的としている。			
<p>■ 技術開発の概要</p> <p>既存躯体接合面に目荒しを施さない耐震改修接合工法を実用化した場合には、既存躯体の損傷を軽減し、かつ、明確な力学メカニズムを有する設計法が確立されることから、これまで以上に建築および土木構造物の耐震補強工法へ適用が加速することが期待でき、幅広くライフライン等の補修・補強に寄与するものと考えられる。具体的には、目荒しをしない接合面に特殊接着剤を塗布した場合の固着抵抗を明確化するための要素実験（図1）を行い、固着抵抗によるせん断耐力式の確立を行う。その後、目荒しをしない接合面に特殊接着剤を塗布した場合の試験体による架構実験（図2）を行い、耐震性能の確認を行う。こうした各種実験を通して提案工法の有効性を検討し、実用化を目指す。</p> <div data-bbox="273 1183 882 1507"></div> <div data-bbox="926 1246 1499 1470"></div> <p>図1 要素実験(イメージ)</p> <div data-bbox="361 1607 952 1956"></div> <div data-bbox="1031 1594 1437 1943"></div> <p>図2 架構実験(イメージ)</p>				
総評	提案は耐震改修において技術開発が要求されている接合部の開発に関する技術項目であり、必要性・緊急性が高いと認められる。また固着接合とダボ接合をミックスした評価式の提案を目指している点は新規性が認められる。			